

滋賀県琵琶湖流域下水道条例抜粋

(滋賀県下水道審議会)

第15条 地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、知事の附属機関として、滋賀県下水道審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

2 審議会は、知事の諮問に応じ、下水道事業その他汚水処理に係る事業に関する総合的な施策の推進に関する重要事項について調査審議する。

(審議会の組織等)

第16条 審議会は、委員16人以内で組織する。

2 委員は、学識経験を有する者その他知事が適当と認める者のうちから知事が任命する。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることを妨げない。

5 審議会に、特別の事項を調査審議させるため必要があるときは、臨時委員を置くことができる。

6 臨時委員は、当該特別の事項に関し学識経験を有する者のうちから知事が任命する。

7 臨時委員は、その者の任命に係る当該特別の事項に関する調査審議が終了したときは、解任されるものとする。

8 委員および臨時委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

9 審議会は、その定めるところにより、部会を置くことができる。

10 前各項に定めるもののほか、審議会の組織および運営に関し必要な事項は、規則で定める。

滋賀県琵琶湖流域下水道条例施行規則抜粋

(下水道審議会の会長および副会長)

第16条 条例第15条に規定する審議会（以下「審議会」という。）に、会長および副会長1人を置く。

- 2 会長および副会長は、委員の互選によって定める。
- 3 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、または欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第17条 審議会の会議は、会長が招集する。

- 2 会長は、会議の議長となる。
- 3 審議会は、委員および議事に関係のある臨時委員の2分の1以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 4 審議会の議事は、委員および議事に関係のある臨時委員で出席したものの過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(部会)

第18条 条例第16条第9項の規定により部会が置かれた場合における部会に属すべき委員および臨時委員は、会長が指名する。

- 2 部会に部会長を置き、会長が指名する委員をもって充てる。
- 3 部会長は、部会の事務を掌理し、部会を代表する。
- 4 部会長は、特別の事項に関する調査審議を終了したとき、または会長が求めるときは、その結果または経過を会長に報告しなければならない。
- 5 審議会は、その定めるところにより、部会の議決をもって審議会の議決とすることができる。
- 6 前条の規定は、部会について準用する。この場合において、同条第1項および第2項中「会長」とあるのは、「部会長」と読み替えるものとする。

(関係者の出席等)

第19条 会長および部会長は、審議会および部会の議事に関して必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見を聴き、または関係資料等の提出を求めることができる。

(庶務)

第20条 審議会の庶務は、琵琶湖環境部下水道課において処理する。

(雑則)

第21条 第16条から前条までに定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

滋賀県下水道審議会の進め方(諮問と答申)

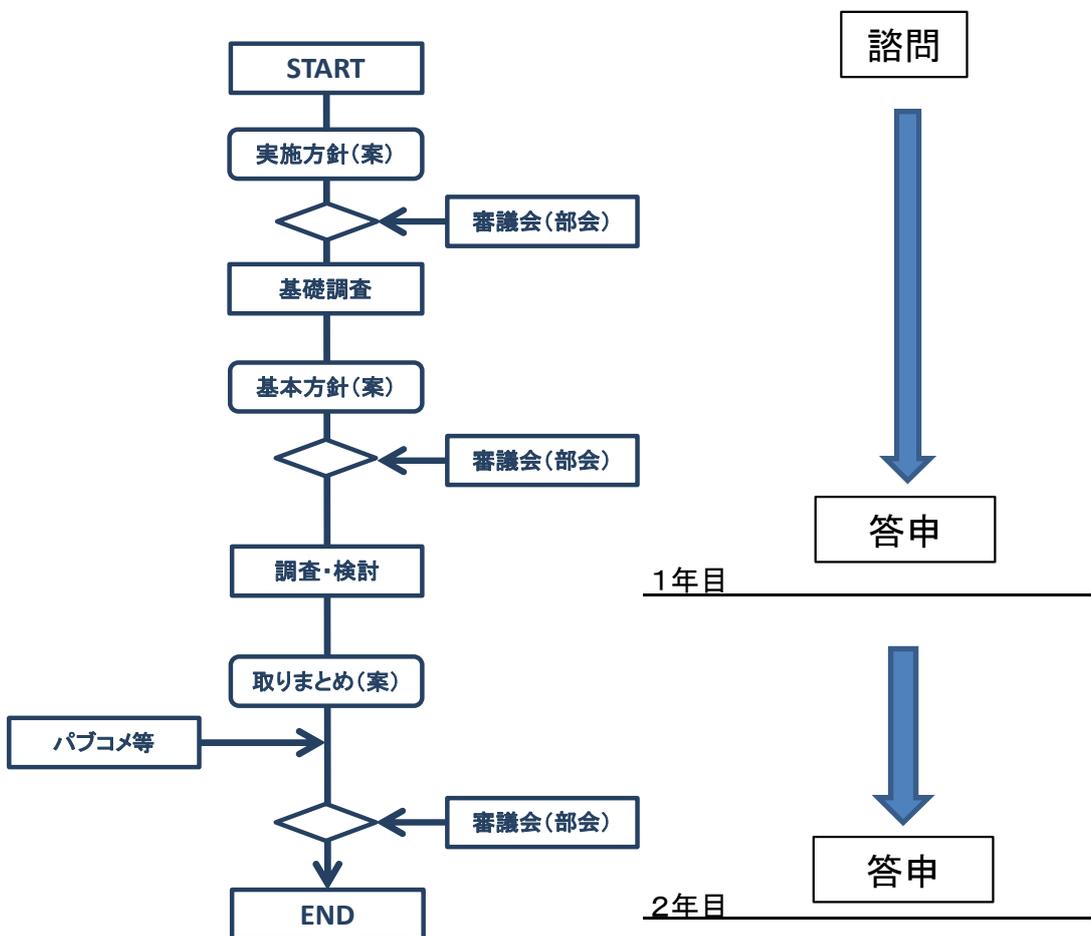
下水道審議会の特徴

- ・審議案件が複数あり、それぞれ答申時期も異なる。
- ・各審議案件については、その時々意見をいただき、その意見をもとにさらに検討を進めていく必要がある。

答申について

- ・いただいた意見を各年度毎に答申としてまとめる。

答申のイメージ



滋賀県下水道審議会運営要領（案）

（目的）

第1条 本要領は、滋賀県琵琶湖流域下水道条例（昭和57年滋賀県条例第18号 以下「条例」という。）第16条第10項および滋賀県琵琶湖流域下水道条例施行規則（以下「規則」という。）第21条の規定に基づき、滋賀県下水道審議会（以下「審議会」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（審議会の開催）

第2条 審議会の開催は、次の各号に該当する場合に開催するものとする。

- 一 定例会議は原則として年1回開催し、基本施策やこれに関わる計画等の進行管理ならびに部会活動報告について審議する。
- 二 知事が必要と認める事項に関わる調査審議を行うとき
- 三 その他、会長が必要と認めるとき

（部会の設置、廃止）

第3条 滋賀県下水道審議会会長（以下「会長」という。）は、条例および規則の定めるところにより部会を設置または廃止するときは、審議会に諮るものとする。ただし、あらかじめ廃止の期日を定めた部会を廃止するときはこの限りではない。

（部会の開催）

第4条 知事または会長は、必要と認めるとき、部会長に招集を請求できるものとする。

（議事の公開）

第5条 会議は、原則として公開とするが、詳細は別途定める「滋賀県下水道審議会における会議の公開方針」によるものとする。なお、公開する場合であっても、会長は、議事の主宰に妨害を加えるなど、議事の進行を妨げる行為をした傍聴者については、当該傍聴者を退去させることができる。

（会議資料の公開）

第6条 会議資料は、原則として会議において公開する。ただし、特段の理由があると会長が認めたときは、会議資料の全部又は一部を公開しないことができる。

（議事録の公表）

第7条 会議の議事録は公開とする。ただし、特段の理由があると会長が認めた場合は、理由を明示し、議事録の全部又は一部を非公表とすることができる。

附 則

この要領は、平成27年10月8日から施行する。

滋賀県下水道審議会における会議の公開方針（案）

第1 趣旨

この方針は、滋賀県下水道審議会（以下「審議会」という。）における会議の公開について必要な事項を定めるものとする。

第2 会議の公開・非公開の取扱

- 1 審議会の会議は、原則として公開するものとする。
- 2 次のいずれかの場合にあっては、会長が審議会に諮って会議を非公開とすることができる。
 - (1) 滋賀県情報公開条例第6条各号に掲げる情報に該当すると認められる事項を審議する場合
 - (2) 会議を公開することにより公正かつ円滑な議事運営に支障が生じると認められる場合

第3 会議の開催の周知

審議会は、公開の会議を開催する場合（議題の一部について公開する場合を含む。）は、次の事項を記載した会議開催案内を作成し、会議開催当日の1週間前まで（緊急に会議を開催する必要が生じたときは、前日まで）に、インターネット上の県のホームページへの掲載により県民に周知するとともに、報道機関に資料提供を行うものとする。

- ア 審議会の名称
- イ 開催日時
- ウ 開催場所
- エ 議題（会議の一部を非公開とする場合は、非公開とする部分の議題および非公開とする理由を含む。）
- オ 傍聴者の定員
- カ 傍聴の手續
- キ 議事録等の公表の時期および方法
- ク 問い合わせ先

第4 公開の方法等

審議会の会議の公開は、会議の傍聴および会議結果の公表の方法により行うものとする。

- 1 会議の傍聴
 - (1) 会議の傍聴については、傍聴希望者（報道関係者を除く。）の内から会長が傍聴を許可する。

なお、報道関係者には、公開する会議の取材を認めるものとする。

また、会議の全部を非公開とする場合にあっては、議事に入るまでの間の報道関係者の取材は認めるものとする。

- (2) 会議の一部を非公開とする場合、会長は当該非公開議題の議事に先立ち、傍聴者ならびに報道関係者へ会場からの退席を指示するものとする。
- (3) 傍聴者は、会議の都度定員に達するまで先着順により決定する。
- (4) 会長は、公開の会議の秩序を維持するため、必要な定めをすることができる。

2 会議結果の公表

公開した会議の結果については、事務局において議事録を作成し、原則として1ヶ月以内に会議資料とともに県民情報室に送付して閲覧に供するものとし、併せて必要に応じ報道機関への資料提供、県のホームページへの掲載による情報提供に努めるものとする。

ただし、個人名等公開することが不相当と認められる事項について公開しないこととすることができる。

第5 その他

本方針に定めのない事項は会長が審議会の意見を聞いて必要の都度定めるものとする。

【参考：滋賀県情報公開条例第6条】

(公文書の公開義務)

第6条 実施機関は、公開請求があったときは、公開請求に係る公文書に次の各号に掲げる情報（以下「非公開情報」という。）のいずれかが記録されている場合を除き、公開請求者に対し、当該公文書を公開しなければならない。

(1) 個人に関する情報（事業を営む個人の当該事業に関する情報を除く。）であって、特定の個人を識別することができるもの（他の情報と照合することにより、特定の個人を識別することができることとなるものを含む。）または特定の個人を識別することはできないが、公にすることにより、なお個人の権利利益を害するおそれがあるもの。ただし、次に掲げる情報を除く。

ア 法令もしくは条例（以下「法令等」という。）の規定によりまたは慣行として公にされ、または公にすることが予定されている情報

イ 人の生命、健康、生活または財産を保護するため、公にすることが必要であると認められる情報

ウ 当該個人が公務員等（国家公務員法（昭和22年法律第120号）第2条第1項に規定する国家公務員（独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第2条第4項に規定する行政執行法人の役員および職員を除く。）、独立行政法人等（独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成13年法律第140号）第2条第1項に規定する独立行政法人等をいう。以下同じ。）の役員および職員、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第2条に規定する地方公務員ならびに地方独立行政法人の役員および職員をいう。）である場合において、当該情報がその職務の遂行に係る情報であるときは、当該情報のうち、当該公務員等の職および当該職務遂行の内容に係る部分

(2) 法人その他の団体（国、独立行政法人等、地方公共団体および地方独立行政法人を除く。以下「法人等」という。）に関する情報または事業を営む個人の当該事業に関する情報であって、次に掲げるもの。ただし、人の生命、健康、生活または財産を保護するため、公にすることが必要であると認められる情報を除く。

ア 公にすることにより、当該法人等または当該個人の権利、競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあるもの

イ 実施機関の要請を受けて、公にしないと条件で任意に提供されたものであって、法人等または個人における通例として公にしないこととされているものその他の当該条件を付することが当該情報の性質、当時の状況等に照らして合理的であると認められるもの

- (3) 公にすることにより、犯罪の予防、鎮圧または捜査、公訴の維持、刑の執行その他の公共の安全と秩序の維持に支障を及ぼすおそれがあると実施機関が認めることにつき相当の理由がある情報
- (4) 法令等の規定により、または法律もしくはこれに基づく政令の規定による指示（地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 245 条第 1 号へに規定する指示その他これに類する行為をいう。）により明らかに公にすることができない情報
- (5) 県の機関ならびに国、独立行政法人等、他の地方公共団体および地方独立行政法人の内部または相互間における審議、検討または協議に関する情報であって、公にすることにより、率直な意見の交換もしくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ、不当に県民等の間に混乱を生じさせるおそれまたは特定の者に不当に利益を与え、もしくは不利益を及ぼすおそれがあるもの
- (6) 県の機関または国、独立行政法人等、他の地方公共団体もしくは地方独立行政法人が行う事務または事業に関する情報であって、公にすることにより、次に掲げるおそれその他当該事務または事業の性質上、当該事務または事業の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあるもの
 - ア 監査、検査、取締りまたは試験に係る事務に関し、正確な事実の把握を困難にするおそれまたは違法もしくは不当な行為を容易にし、もしくはその発見を困難にするおそれ
 - イ 契約、交渉または争訟に係る事務に関し、県、国、独立行政法人等、他の地方公共団体または地方独立行政法人の財産上の利益または当事者としての地位を不当に害するおそれ
 - ウ 調査研究に係る事務に関し、その公正かつ能率的な遂行を不当に阻害するおそれ
 - エ 人事管理に係る事務に関し、公正かつ円滑な人事の確保に支障を及ぼすおそれ
 - オ 県、国もしくは他の地方公共団体が経営する企業、独立行政法人等または地方独立行政法人に係る事業に関し、その企業経営上の正当な利益を害するおそれ